

基礎看護学実習の考え方

基礎看護学は、各看護学の基礎であり、かつ共通する内容として各看護学の基盤となるものである。したがって、基礎看護学実習では、対象の生活環境を理解し、看護実践の基盤となるコミュニケーションを用いた対象の理解と、対象に必要な日常生活援助技術の実践を行う。

次に、対象理解に基づいた、看護上の問題の明確化、看護計画の立案と実施、その際に得られた対象の反応から評価、という看護過程の展開の一連を学ぶ。対象とのコミュニケーションをとまなう看護実践を通して形成される対人関係能力の基礎的能力と倫理的態度を養う。

「基礎看護学実習Ⅰその１（１単位 45 時間の内 15 時間）」では、対象の生活の場となる療養環境と、入院生活が対象に与える影響について、コミュニケーションの中から理解させる。また看護師の実践している援助場面の見学を通して、看護師も環境因子の１つであり、対象に与える影響について考えさせる。初めての臨地であることから、講義で学んでいる知識、技術の統合の場を見学し、今後の学習の動機づけにつなげる。

「基礎看護学実習Ⅰその２（１単位 45 時間の内 30 時間）」では、既習学習の知識、技術を生かして、対象に必要な日常生活援助を実施する。実施に際しては、倫理的態度をもって、看護師等の見守りの下、基本動作を安全安楽に提供できることを目指す。また日常生活援助が対象に与える影響について、バイタルの測定等観察を通して考えさせる。

「基礎看護学実習Ⅱ（２単位 90 時間）」では、１年次の共通基本技術で学んだ看護過程の展開の実際を学ぶ。対象から収集した情報の解釈・分析を行い、看護上の問題の明確化を図り、看護計画を立案し、それに基づき、実施する。そして得られた対象の反応・変化を根拠に基づき評価するという一連の過程を通して、看護の展開方法を理解させる。

科目名	単位	時間	目的
基礎看護学実習Ⅰ（その１）	1	15	対象と対象の療養環境を理解し、対象のニーズに応じた日常生活援助を学ぶ
基礎看護学実習Ⅰ（その２）		30	対象と対象の療養環境における日常生活を理解し、ニーズに応じた援助を学ぶ
基礎看護学実習Ⅱ	2	90	看護の対象となる患者及び家族を身体的・心理的・社会的側面から総合的に理解し、科学的根拠に基づいて看護過程の展開ができる基礎的能力を養う

1. 基礎看護学実習Ⅰ（その１）

1) 実習目標

- (1) 対象の生活と療養環境を理解できる
- (2) 看護場面の見学を通し、対象と看護師の関係について理解できる
- (3) 対象を尊重する態度で相手に向き合い、誠実に関わることができる

2) 実習期間・場所・時間

- (1) 実習期間：１年次 第１学期
- (2) 実習場所：浜田医療センター
3階北病棟・3階南病棟・4階北病棟・4階南病棟・5階北病棟・5階南病棟
- (3) 実習時間：15時間 /45時間（1単位） 実習1単位時間：45分

内容	時間	A グループ		B グループ	
臨地実習	14 時間	1 日目	9：30～15：45	1 日目	9：30～15：45
		2 日目	9：00～15：15	2 日目	9：00～15：15
実践活動外学習時間 (学内でまとめ)	1 時間	1 日目	15：45～16：00	1 日目	15：45～16：00
		2 日目	15：15～15：45	2 日目	15：15～15：45

3) 学習内容

実習目標	行動目標/教育内容
1. 対象の生活と療養環境を理解できる	1) 対象の療養環境について述べるができる (1) 個室・多床室の特徴 (2) ベッドの位置・物の配置 (3) 環境の要素(空気・光・臭気・暖かさ・騒音・気分転換・ベッドと寝具・栄養と食物) の実際 (4) 環境の要素に対する患者の気持ち (5) プライバシーの守り方 2) 入院による生活の変化について述べるができる (1) 自宅と入院による生活の変化に対する気持ち (2) 病気及び身体機能低下からくる気持ち (3) 療養生活で感じる時間
2. 看護場面の見学を通し、対象と看護師の関係について理解できる	1) 対象とのコミュニケーションに関する学びを述べるができる (1) 患者に配慮した言語的・非言語的コミュニケーションの実際 (2) 目線・あいづち等を活用し、相手が話しやすい状況 (3) 相手へ自分が行うことをわかりやすい説明 (4) 情緒的安定をもたらす、人的環境である看護師の対応 2) 看護場面(環境調整・日常生活援助)の実際について述べるができる (1) 患者の状況に合わせた環境調整 (2) 患者の状況に合わせた訪室 (3) 相手の反応を捉える観察力 (4) 日々の相手の変化を捉える観察力 (5) ナースステーションで行われていること (6) 看護師同士の報告・連絡・相談
3. 対象を尊重する態度で相手に向き合い、誠実に関わることができる	1) 対象を尊重する態度で、相手に向き合うことができる (1) 相手の思いと学生の受け止めに大きな相違がない (2) 相手の立場に立ち何が良いかを考える (3) 看護者として必要なルール・マナー (言葉使い、挨拶、清潔感のある身だしなみ) (4) 学生と指導者との報告・連絡・相談 (5) 学生と教員との報告・連絡・相談 (6) 学生同士の報告・連絡・相談 (7) 病棟で患者にかかわる様々な職種 2) 適切に情報管理ができる (1) 記録の匿名性の遵守 (2) 記録物の管理 (3) 守秘義務(記録・会話等)

2. 基礎看護学実習 I (その 2)

1) 実習目標

- (1) 対象の日常生活を理解できる
- (2) 対象のニーズに応じた日常生活援助ができる
- (3) 看護者として必要な態度を養うことができる

2) 実習期間・場所・時間

- (1) 実習期間：1 年次 第 2 学期
- (2) 実習場所：浜田医療センター

3 階北病棟・3 階南病棟・4 階北病棟・4 階南病棟・5 階北病棟・5 階南病棟

(3) 実習時間：30 時間 /45 時間（1 単位） 実習 1 単位時間：45 分

内容	時間	詳細	
臨地実習	26	1 日目 10：30～15：15（5 時間/日） 2～4 日目 9：00～15：15（7 時間/日）	1 日目の午前中は患者情報受け取り時間とする
実践活動外 学習時間	4	4 日間 15：15～16：00（1 時間/日）	記録整理・文献検索・技術練習

3) 学習内容

実習目標	行動目標/学習内容
1. 対象の日常生活を理解できる	<p>1)対象の 24 時間の日常生活の把握</p> <p>(1) 毎日のスケジュール：食事・排泄・活動・休息・清潔・整容・レクリエーション等の状況把握</p> <p>(2) 治療や処置等の時間帯・日常生活援助の時間帯</p> <p>2)対象の生活に対する思いの把握</p> <p>(1)症状や検査・治療環境の心理面への影響、本来の生活の場から離れた事による影響</p>
2. 対象のニーズに応じた日常生活援助ができる	<p>1) 対象のニーズに関する総合的判断</p> <p>(1) 基本的欲求</p> <p>(2) 基本的欲求に影響を及ぼす常在条件の把握</p> <p>(3) 基本的欲求を変容させる病理的存在の把握</p> <p>2) ニーズに応じた日常生活援助の明確化</p> <p>(1)セルフケア状況と充足・未充足の程度の確認</p> <p>3) 看護師と共に対象へわかりやすい言葉で説明する</p> <p>(1) 看護ケアの目的・方法</p> <p>(2) 効果とリスク</p> <p>(3) 代替方法</p> <p>4) 日常生活援助実施が可能かどうかの判断</p> <p>(1) バイタルサイン（体温・脈拍・呼吸・血圧）の測定</p> <p>(2) 正常値やこれまでの経過との比較</p> <p>5) 看護師と共に安全安楽に基づいたケアを実施</p> <p>(1) 安全確保・感染予防・苦痛緩和・安楽確保 プライバシー保護 モニタリング</p> <p>6) 日常生活援助中の臨床判断</p> <p>(1) 看護師と共に対象の反応に気付く</p> <p>①対象の表情や反応・しぐさからの把握</p> <p>(2) 看護師と共に対象の反応に呼応しながら実践</p> <p>①日常生活援助中の対象の変化の把握</p> <p>②状況に応じた修正</p> <p>(3) 看護師と共に対象の反応や変化を解釈する</p> <p>①日常生活援助中の対象の変化の意味づけ</p> <p>②日常生活援助の継続が可能かどうかの検討</p> <p>(4) 対象に実施した日常生活援助の振り返りおよび追加・修正</p> <p>①対象のニーズを基にした看護の必要性</p> <p>②対象にあわせた援助の工夫（方法・手順等・全面介助・部分介助・見守り）</p> <p>③対象の希望を取り入れる</p> <p>④実施後の客観的評価と主観的評価の記録を踏まえた改善策</p> <p>7) 看護者と対象の信頼関係の構築について自分の考えを述べる</p> <p>(1) 対象のニーズを充たす援助を通して徐々に信頼関係を築いていくことの重要性</p>
3. 看護者として必要な態度を養うことができる	<p>1) 相手（患者・家族・指導者）を尊重し思いやる姿勢</p> <p>(1) その場の状況にふさわしい行動</p> <p>(2) 身だしなみ</p> <p>(3) 誠実な態度</p>

実習目標	行動目標/学習内容
	2) 学習に対しての主体的な取り組み (1) 事前学習 (2) 疑問を放置しない姿勢 (技術練習・文献検索) (3) 振り返り会の積極的な参加 (4) 期限の厳守 (提出物・約束等) (5) 体調管理 3) チームワーク (1) 報告・連絡・相談 ※相手の状況や反応を確認しながら伝えるべきことは伝える (2) チーム内の自分の役割の遂行 (リーダーシップ・メンバーシップ) 4) 安全への配慮 (1) 感染対策の徹底 (2) アサーティブなコミュニケーションがとれる (3) 個人情報の管理 5) 自己の実践を振り返りと意味づけ—看護観の形成につなげる— (1) 自己の傾向の分析 (2) 自己の課題の明確化 (3) 大切にしたい看護の明確化

3. 基礎看護学実習Ⅱ

1) 実習目標

- (1) 対象を理解するために必要な情報を収集する
- (2) 情報を解釈・分析し看護上の問題点を明確にする
- (3) 対象の看護問題に応じた看護計画を立案する
- (4) 看護計画に基づき、対象の状況に応じた看護を実践する
- (5) 対象の反応をもとに実施した看護を振り返り、評価する
- (6) 看護者として必要な態度を養う

2) 実習期間・場所・時間

- (1) 実習期間：2年次 第1学期
- (2) 実習場所：浜田医療センター
3階北病棟・3階南病棟・4階北病棟・4階南病棟・5階北病棟・5階南病棟
- (3) 実習時間：90時間 (2単位) 実習1単位時間：45分

内容	時間	詳細
臨地実習	80H	9:00~16:00 (8時間/日) 8:45 までに出席・健康状態を報告する 8:55 までに実習場所へ到着する 12:00~13:00 休憩 15:30~16:00 振り返り
実践活動外学習時間	10H	16:00~16:45 (1時間/日) 文献検索・技術練習・記録整理

3) 学習内容

実習目標	行動目標/教育内容
1. 対象を理解するために必要な情報を収集する	1) 情報源を選択し収集できる 2) 必要な方法を用いて情報を収集できる (1) 観察 (フィジカルイグザミネーション) (2) コミュニケーション

実習目標	行動目標/教育内容
	3) 情報の種類を分類できる (1) 情報の種類 主観的データ (S) 客観的データ (O) (2) 情報の分類 ①アセスメントの枠組み (ゴートン: 機能的健康パターン) 4) 経過に応じて情報を整理できる (1) 経過の段階・種類
2. 情報を解釈・分析し、看護上の問題点を明確にする	1) 情報を整理し、分析できる (1) 現状の把握 ①情報の整理 (2) 現状を引き起こしている原因の分析 ①健康逸脱の有無と解釈 ②強みの把握 2) 成り行きを推論し、判断できる 3) 看護の必要性を述べる 4) 全体像を把握できる (1) 情報と情報との関連性 (2) 領域間の同一情報の総合 5) 看護上の問題を抽出できる (1) 実在型 (2) リスク型 6) 優先度を判断できる (1) 生命の維持に関連すること (2) 緊急性が高いこと (3) 苦痛に感じていること (4) 価値観による
3. 対象の看護問題に応じた看護計画を立案する	1) 目標を設定できる (1) 長期目標・短期目標の設定 (2) 対象を主語にした目標設定 (3) 具体的に観察でき測定可能な目標 2) 計画を立案できる (1) 観察計画・ケア計画・教育計画 (2) 安全・安楽・自立性の考慮 (3) 具体的に 4W1H で表現
4. 看護計画に基づき、対象の状況に応じた看護を実践する	1) 対象の本日の状態・生活リズムを考慮した生活援助を実施できる 2) 対象の反応を確認しながら実施できる 3) 援助技術の安全性・安楽性・自立性の原則に基づいて実施できる 4) 日常生活援助を実施できる (1) 食事の援助 (2) 排泄の援助 (3) 清潔の援助 (4) 環境への援助 (5) 移動・移送への援助 5) 精神的、社会的側面の援助を述べる (1) 不安の緩和 (2) 社会的役割、家族を考慮した関わり (3) 家族への配慮
5. 対象の反応をもとに実施した看護を振り返り、評価する	1) 実施した看護を評価できる (1) 実施可能かどうかの判断 (2) 実施前の計画の見直し (追加修正) (3) 対象の反応の観察 (4) 安全・安楽・自立性の考慮 (5) プライバシーの保護 (倫理的配慮) (6) 目標達成の有無と判断 2) 目標の達成度を評価できる (1) 目標達成の状況 (2) 評価レベル (3) 目標達成または、目標達成に至らなかった状況の考察

実習目標	行動目標/教育内容
	3) 追加または修正できる (1) 新たな情報の追加 (2) 新たな看護上の問題の追加 (3) 短期目標・長期目標の修正 (4) 具体策の修正
6. 看護者として必要な態度を養うことができる	1) 相手（患者・家族・医師・看護師・指導者）を尊重し思いやる姿勢 (1) その場の状況にふさわしい行動 (2) 身だしなみ (3) 誠実な態度 2) 学習に対しての主体的な取り組み (1) 事前学習 (2) 自己の課題への取り組み（技術練習・文献検索） (3) カフェイン・振り返り会等の積極的な参加 (4) 期限の厳守（提出物・約束等） (5) 体調管理 3) チームワークを考えた行動 (1) 報告・連絡・相談 ※相手の状況や反応を確認しながら伝えるべきことは伝える (2) チーム内の相互の役割調整（リーダーシップ・メンバーシップ） 4) 安全管理への配慮 (1) 感染対策の徹底 (2) アサーティブなコミュニケーションがとれる (3) 事故を起こすリスクを考えた行動 (4) 個人情報の管理 5) 自己の実践の振り返りと意味づけ：看護観の形成につなげる (1) 自己の傾向の分析 (2) 自己の課題の明確化 (3) 大切にしていきたい看護について考え表現（自分の目指す看護師像）

※ 看護過程の展開は1事例で行う。2事例以降は実習目標が達成できるように学習課題を明確にして取り組む。

地域・在宅看護論実習の考え方

地域・在宅看護論実習は、専門分野の位置づけであり、地域・在宅看護論実習Ⅰ～Ⅲで構成される。

1年次の地域・在宅看護論実習Ⅰは、地域への関心を高める実習として、実際に地域で暮らす市民の生活などに参加して地域の人々がどのような生活をしているのか理解する。2年次の地域・在宅看護論実習Ⅱでは、地域包括ケアシステムを構成する施設について授業でまとめた内容を地域に出て展開する。3年次の地域・在宅看護論実習Ⅲは、地域で生活する在宅療養者や家族を含めてあらゆる発達段階の人を対象とし、地域で展開している場での継続看護（訪問看護ステーション）、社会資源である病院・施設でのケア・サービス、介護支援センター、居宅介護支援事業所など地域の実情に合わせた実習を展開する。この中で、居宅から病院、病院から居宅への看護の継続性や多職種との連携を学ぶ内容とした。

科目名	単位	時間	目的
地域・在宅看護論実習Ⅰ	1	45	宿泊体験における交流を通して、地域住民の生活・思いを知り、自分たちにできることを考え実行する
地域・在宅看護論実習Ⅱ	1	45	地域全体で人々の暮らしを支える仕組みを理解し、通所・入所施設を利用する地域の人々との交流を通し、看護師の役割を学ぶ
地域・在宅看護論実習Ⅲ	2	90	疾病や障害を抱えながら在宅の場で生活している療養者及び家族を総合的に理解し、健康管理と生活を支援するための基礎的知識・技術・態度を養う

1. 地域・在宅看護論実習Ⅰ

1) 実習目標

- (1) 宿泊体験を通して地域住民の生活・思いを知る
- (2) 地域住民のためにできることを考える
- (3) 看護者としての必要な態度を養う

2) 実習期間・場所・時間

- (1) 実習期間：1年次 第1学期～第2学期（1泊2日×2回、まとめの会1日の計5日間）

	宿泊1回目	宿泊2回目	まとめの会
期間	第1学期	第2学期	第2学期

- (2) 実習場所：浜田市周辺の民泊施設、看護学校5階講堂

- (3) 実習時間：45時間（1単位）実習1単位時間：45分

内容	時間	詳細	
臨地実習	30	7.5時間/日、1泊2日で15時間	1泊2日×2回
実践活動外 学習時間	15	2	実習村エンターション
		4	事前準備
		5	まとめの会準備
		4	まとめの会（地域の人々と一緒に）

- (4) 臨地実習1泊2日（7.5時間の詳細）

時刻	6:00	8:00	10:00	12:00	14:00	16:00	18:00	20:00	22:00	24:00
1日目	学校集合（8:50）		準備	昼食	対面式・出発	共同調理・食事	交流・入浴等	就寝		
2日目	起床 朝食 活動 出発（11:00）				振り返り・まとめ					

3) 学習内容

実習目標	行動目標／学習内容
1. 宿泊体験を通して地域住民の生活・思いを知る	1) 地域住民の生活環境を知る (1) 家族形態 (2) 交通 (3) 買い物 (4) 医療 (5) 冠婚葬祭 (6) 人との交流 (7) 生活共同体としてのコミュニティ (8) 地域風土 2) 地域住民の思いを知る (1) 価値観 (2) 地域への思い (3) 健康管理 (4) 生活上の問題 (5) 行政や医療・福祉への期待・要望 3) 地域住民の生活にみられる変化を述べる (2回の宿泊体験を通して理解する)
2. 地域住民のためにできることを考える	1) 対象にどのようなニーズがあるのか知る 2) 対象のニーズに沿って自分にできることを考える
3. 看護者として必要な態度を養う	1) 対象を尊重する態度ができる 2) 主体的な学習ができる 3) チームワークがとれる 4) 感染対策など保健行動がとれる (医療安全に対する配慮ができる) 5) 対象の反応をとらえ、自己の経験を振り返り意味づけをする (自己の看護観を明確にできる)

2. 地域・在宅看護論実習Ⅱ

1) 実習目標

- (1) 地域全体で人々の暮らしを支える仕組みを知る
- (2) 地域包括ケアシステムを構築する施設やそこで働く多職種について知る
- (3) 通所施設の利用者や家族との交流を通し、看護師の役割を考える
- (4) 入所施設の利用者や家族との交流を通し、看護師の役割を考える
- (5) 生活上の健康問題を予防する関わりや取り組みを知る
- (6) 看護者として必要な態度を養うことができる(共通目標)

2) 実習期間・場所・時間

- (1) 2年次 第1学期

(2) 実習場所

浜田市支所、浜田市社会福祉協議会、特別養護老人ホーム偕生園、
複合型小規模多機能施設ほっとの家、デイサービス やまもの家、養護老人ホーム寿光苑

- (3) 実習施設の組み合わせ一覧 (実習要綱参照)

- (4) 実習時間：45時間 (1単位) 実習1単位時間：45分

内容	時間	詳細
臨地実習①社会福祉協議会	5	8：30～12：15 (5時間/日)
臨地実習②その他3施設	27	9：00～16：45 (9時間/日)
実践活動外学習時間	1	9：00～9：45 (1時間/日) 実習オリエンテーション
	4	9：00～12：00 まとめの会準備①
	4	13：00～16：00 まとめの会準備②
	4	13：00～16：00 (4時間/日) まとめの会

3) 実習内容

実習目標	行動目標/学習内容
1. 地域全体で人々の暮らしを支える仕組みを知る	1) 地域で暮らす人々を支える仕組みとしての社会保障制度 (1) 療養者と家族を支える社会保障制度 ① 社会保障制度の中の医療保険制度、介護保険制度 ② 医療保険制度 被用者保険(職域保険)、国民健康保険(地域保険)、後期高齢者医療制度 ③ 介護保険制度 保険者(市町村：特別区を含む)と被保険者(第1号、第2号被保険者) 介護保険法で定める16特定疾病 2) 地域で暮らす人々を支える仕組みとしてのフォーマル・インフォーマルな活動
2. 地域包括ケアシステムを構築する施設やそこで働く多職種について知る	1) 地域包括ケアシステムの構築に関わる施設 (1) 行政関連施設 (2) 社会福祉協議会 (3) <u>通所施設サービスと目的</u> 通所リハビリテーション(デイケア)、通所介護(デイサービス)、地域密着型通所介護、療養通所介護、認知症対応型通所介護 (4) <u>入所施設サービスと目的</u> 介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)、介護老人保健施設(老健)、介護療養型医療施設、特定施設入居者生活介護施設(有料老人ホーム、軽費老人ホーム)、介護医療院 (5) <u>訪問・通所・宿泊を組み合わせたサービスと目的</u> 小規模多機能型居宅介護、看護小規模多機能型居宅介護(複合型サービス)、短期入所生活介護(ショートステイ)、短期入所療養介護 2) 多職種連携と看護師の役割 (1) 利用者を支える人々と各職種の強み ① <u>医療専門職</u> 医師・薬剤師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・歯科医師・歯科衛生士・管理栄養士・栄養士・保健師・助産師 ② <u>福祉専門職</u> 介護支援専門員(ケアマネジャー)・精神保健福祉士・社会福祉士・介護福祉士・訪問介護員(ホームヘルパー) (2) 多職種連携の中で求められる看護師の役割 ① 情報共有の場や人脈づくり ② 看護師として情報を把握することの意味 ③ 住み慣れた地域でのシームレスなケアの提供 ④ 支えられる存在としての看護師
3. 通所施設の利用者や家族との交流を通し、看護師の役割を考える	1) 通所施設の利用者や家族の思いや背景 (1) 利用者や家族の思い (2) 利用者と家族の関係性、これまでの背景 (3) 利用者と家族のネットワーク (4) 住み慣れた地域・コミュニティとの関係性 2) 1) をふまえて看護師の役割を述べることができる
4. 入所施設の利用者や家族との交流を通し、看護師の役割を考える	1) 入所施設の利用者や家族の思いや背景 (1) 利用者や家族の思い (2) 利用者と家族の関係性、これまでの背景 (3) 利用者と家族のネットワーク (4) 住み慣れた地域・コミュニティとの関係性 2) 1) をふまえて看護師の役割を述べることができる

実習目標	行動目標/学習内容
<p>5. 生活上の健康問題を予防する関わりや取り組みを知る</p>	<p>1) ライフステージによる健康問題と予防 (1) 子どもの健康問題と予防 (2) 青年期・壮年期の健康問題と予防 (3) 妊娠・出産をめぐる健康問題と予防 (4) 老年期の健康問題と予防</p> <p>2) 健康問題と予防に関わる職種と役割 (1) 地域包括支援センターの役割 関連職種：主任介護支援専門員(主任ケアマネジャー)、保健師、社会福祉士 役割：介護予防・日常生活支援総合事業</p> <p>(2) 社会福祉協議会の役割 関連職種：民生委員、児童委員、福祉委員、町内会長 役割：地域福祉活動・地域づくり(サロン等交流の場、見守り活動等) 相談支援、権利擁護(福祉総合相談・専門相談、日常生活支援事業等) 介護予防、介護・生活支援サービス</p>
<p>6. 看護者として必要な態度を養うことができる(共通目標)</p>	<p>1) 相手(患者・家族・医師・看護師・多職種)を尊重し思いやる態度 (1) その場の状況にふさわしい行動 (2) 身だしなみ (3) 誠実な態度 (4) 最善の看護の提供を追求</p> <p>2) 学習に対する主体的な取り組み (1) 事前学習 (2) 自己の課題への取り組み(看護技術の自己研鑽・文献検索) (3) カンファレンス・振り返り会等の積極的な参加 (他者の意見を受け止め、自己の考えを表現) (4) 期限の厳守(提出物・約束事) (5) 体調管理 (6) 批判的思考</p> <p>3) チームワーク (1) 報告・連絡・相談 (2) チーム内の相互の役割調整</p> <p>4) 安全管理への配慮 (1) アクティブなコミュニケーションがとれる (2) 医療事故防止のための意見交換 (3) 医療事故防止のための共有化 (4) 日々の生活の中で事故防止のための行動 (5) 個人情報管理</p> <p>5) 自己の看護観の明確化 大切にしていきたい看護について考え表現(自分の目指す看護師像・自己と向き合い課題解決のための行動)</p>

3. 地域・在宅看護論実習Ⅲ

1) 実習目標

- (1) 継続した医療管理やケアを必要とする療養者と家族を支える看護師の関わりを述べる
- (2) 地域で生活する療養者と家族を支える社会制度を総合的に理解し、多職種との情報共有の在り方と看護師の役割を述べる
- (3) 地域のプライマリ・ケアを担う診療所で実践されている医療・看護の在り方を知る
- (4) 看護者として必要な態度を養うことができる(共通目標)

2) 実習期間・場所・時間

- (1) 2年次 第2学期～3年次
- (2) 実習場所
浜田医療センター地域連携室
診療所(国民健康保険弥栄診療所、国民健康保険あさひ診療所、国民健康保険波佐診療所)
訪問看護ステーション(訪問看護ステーション浜田、訪問看護ステーションそよかぜの丘、高砂訪問看護ステーション)

(3) 実習時間：90時間（2単位） 実習1単位時間：45分

実習場所	時間数/日	実習時間帯	備考
診療所実習	9時間 (6時間45分)	9:30~17:15 (振り返り30分含む)	利用する公共交通機関によつて実習時間帯を調整する
地域連携室	9時間 (6時間45分)	9:00~15:30 (振り返り30分含む) 15:30~16:45 (実践活動外学習時間)	15時30分以降、学びのまとめと訪問看護ステーション実習の準備を行う
訪問看護ステーション	9時間 (6時間45分)	8:30~16:15	現地集合・現地解散とする
実践活動外学習時間	9時間 (6時間45分)	9:00~16:45	

3) 学習内容

実習目標	行動目標/学習内容
1. 継続した医療やケアを必要とする療養者と家族を支える看護師の関わりを述べる	<p>1) 疾病や障害を抱えながら生活している療養者と家族の身体的・精神的・社会的側面に関する情報を得て整理する</p> <p>(1) 療養者の生活環境（居住地域の環境、住宅および居室の環境）</p> <p>(2) 療養者や家族の思いやエピソード</p> <p>(3) 療養者と家族の関係性（ジェノグラム[®]の活用）</p> <p>(4) 療養者の生活リズム・スケジュール</p> <p>(5) 療養者の健康状態</p> <p>既往歴・現病歴・治療方針・内服薬・心身の状況や基本的日常生活動作(ADL) 障害高齢者の日常生活自立度判定基準（自立～C2）</p> <p>認知症高齢者の日常生活自立度判定基準（自立～M）</p> <p>2) 療養者や家族が地域包括ケアシステムの中でどのように継続した医療やケアを受けているのか関連性を整理し述べる</p> <p>(1) 生活支援・介護予防的側面 (2) 医療的側面</p> <p>(3) 看護的側面 (4) 介護的側面</p> <p>3) 療養者や家族の生活を「自助」「互助」「共助」「公助」の視点で捉え整理する</p> <p>4) 看護師に相談しながら訪問看護に至るまでの準備・調整を行う</p> <p>5) 看護師の訪問看護に同行し療養者と家族を支援する看護を共に実践する</p> <p>6) 療養者や家族の些細な変化にも気づき、先を見越して対応する看護師の臨床判断に関する自己の学びをまとめる</p> <p>(1) 療養の場におけるフィジカルアセスメント・症状別アセスメント（訪問看護師による臨床判断）</p> <p>(2) 療養の場における看護ケア（ケアの実際・ケア方法の指導）</p> <p>(3) 療養者や家族に対する継続看護がどのように実践されているのか述べる</p>
2. 地域で生活する療養者と家族を支える社会制度を総合的に理解し、多職種との情報共有の在り方と看護師の役割を述べる	<p>1) 療養者や家族がどのように社会制度を利用しながら在宅療養生活を継続しているのか具体的に述べる</p> <p>(1) 療養を支える人々・施設</p> <p>地域連携室の役割（前方連携・後方連携）の実際、看護の継続性の意味</p> <p>(2) 活用しているサービス（エコマップ[®]の活用）</p> <p>(3) 地域の社会資源の把握と情報提供</p> <p>(4) 諸手続きの支援</p> <p>2) 療養者と家族を支える多職種との情報共有の在り方について述べる</p> <p>(1) 多職種との連絡・調整</p> <p>3) 地域で生活する療養者と家族を支える看護師の役割について述べる</p>
3. 地域のプライマリ・ケアを担う診療所で実践されている医療・看護の在り方を知る	<p>1) 中山間地域におけるプライマリ・ケア（ACCCAを基盤とする）</p> <p>(1) 療養者の抱える問題への対処 (2) 継続的なパートナーシップ</p> <p>(3) 最初の第一線の関わり (4) 療養者の総合的な捉え方</p>

実習目標	行動目標/学習内容
	2) 地域の病院、施設との連携 (1) 中山間地域における診療所の役割 (2) 地域の医療機関との情報共有 (まめネット)
4. 看護師として必要な態度を養うことができる(共通目標)	1) 相手 (患者・家族・看護師・他職種) を尊重し思いやることができる (1) その場の状況にふさわしい行動 (2) 身だしなみ (3) 誠実な態度 (4) 最善の看護の提供を追求 2) 学習に対して主体的に取り組むことができる (1) 事前学習 (2) 自己の課題への取り組み(研究的視点・他の研究成果の活用) (3) カンファレンス・振り返り会への積極的な参加(他者の価値観を受け止め、自己の考えを表現) (4) 期限の厳守(提出物・約束事) (5) 体調管理 (6) 批判的思考 3) 報告・連絡・相談ができる (1) 報告・連絡・相談の必要性の理解 (2) 困難な状況時の応援要請 (3) タイムリーな報告・連絡・相談 4) チームワークを考えた行動がとれる (1) グループ内での情報共有 (2) 他者の状況の把握 (3) リーダーシップ・メンバーシップ 5) 安全への配慮ができる (1) アサーティブなコミュニケーションがとれる (2) 医療事故防止のための意見交換 (3) 医療事故防止のための共有化 (4) 日々の生活の中で事故防止のための行動 (5) 個人情報管理 6) 自己の実習を振り返り、課題を明確にできる 大切にしていきたい看護について自分の考えを表現する (目指す看護師像・自分と向き合うことで見えた課題解決のための具体的行動)

成人・老年看護学実習の考え方

「成人・老年看護学実習」は、成人・老年看護学実習（対象理解／看護過程の展開）、成人・老年看護学実習（急性・回復期）、成人・老年看護学実習（慢性期）、成人・老年看護学実習（終末期）で構成した。また、対象の全体像を把握し、科学的な判断力や問題解決能力を養う内容とした。成人・老年看護学実習（対象理解／看護過程の展開）の考え方は、健康障害を持つ成人・老年期にある対象のQOLに着目した個別性のある看護が提供できることを目指して、慢性期にある成人・老年期の対象の看護過程を展開し、生活者の視点から回復を促す看護の実践を学ぶ内容とした。成人・老年看護学実習（急性・回復期）（慢性期）（終末期）では、成人・老年期にある対象の個別性を踏まえた看護を提供できることを目指し、各実習を健康段階別にⅠ～Ⅳ組み立て対象の特徴に応じた看護を学ぶ内容とした。

科目名	単位	時間	目的
成人・老年看護学実習Ⅰ (対象理解/看護過程の展開)	2	90	健康障害のある成人・老年期の特徴をとらえて病態や治療計画を理解し、生活者としての視点から対象の健康を維持・向上する看護が実践できる基礎的能力を身につける
成人・老年看護学実習Ⅱ (急性期・回復期)	2	90	健康障害を持つ成人期にある患者および家族を総合的に理解し、急性期から回復期の看護が実践できる基礎的能力を養う
成人・老年看護学実習Ⅲ (慢性期)	2	90	成人・老年期で慢性的過程にある対象および家族の特徴を総合的に理解し、看護実践のための基礎的能力を身につける
成人・老年看護学実習Ⅳ (終末期)	2	90	成人・老年期の終末期にある対象および家族の特徴を総合的に理解し、看護実践のための基礎的能力を身につける

1. 成人・老年看護学実習Ⅰ（対象理解／看護過程の展開）

1) 実習目標

- (1) 健康障害のある成人・老年期の対象を身体的・精神的・社会的な側面から理解できる
- (2) 健康障害のある成人・老年期の対象の健康レベル・発達段階に応じた日常生活援助を安全・安楽に実施できる
- (3) 健康障害のある成人・老年期の対象の検査・治療・処置に伴う影響を理解し援助ができる
- (4) 健康障害のある成人・老年期の対象とその家族の継続看護に向けた援助が理解できる
- (5) 看護者としての必要な態度を養うことができる（共通目標）

2) 実習期間・場所・時間

- (1) 実習期間：2年次 第2学期
- (2) 実習場所：浜田医療センター
3階北病棟・3階南病棟・4階北病棟・4階南病棟・5階北病棟・5階南病棟
- (3) 実習時間：90時間（2単位） 実習1単位時間：45分

内容	時間	詳細	備考
実習前準備	—	8:30～ 9:00	健康状態、身だしなみの確認、出席報告 記録物・提出物の確認 教育当番は、8:45 までに出席・健康状態を担当へ報告する
臨地実習	80	9:00～16:00 (8時間/日)	8:55 までに実習場所へ到着する 12:00～13:00 休憩（食事介助、検査の見学などで変更可） 1日目：9～15時、午前刈エンターション、受け持ち患者紹介、情報収集
実践活動外 学習時間	10	16:00～16:45 (1時間/日)	記録整理、文献学習、実技練習、カンファレンス準備、教員の指導を受ける 臨地でのカンファレンスは16:45 まで設定可

3) 学習内容

実習目標	行動目標/学習内容
1. 健康障害のある成人・老年期の対象を身体的・精神的・社会的な側面から理解できる	1) 入院までの健康状態を述べる 健康に対する意識・既往歴・健康管理行動 2) 入院前の生活状況を述べる 生活背景・生活習慣・生活史・居住環境 3) 入院から現在までの健康障害を述べる 現疾患の治療状況の把握・実在型の合併症の把握 4) 健康障害のある成人・老年期にある対象の身体的側面を述べる 症状に関連する要因・症状体験の理解・症状の種類や性質・主観的客観的情報の適時観察・症状に伴う生活上の支障（防衛力・予備力・適応力・回復力） 5) 健康障害のある成人・老年期にある対象の精神的側面を述べる 病気の受け止め方・本人と家族が抱えるストレス・価値観・強み・問題認識 6) 健康障害のある成人・老年期にある対象の社会的側面を述べる 家族との関係性・役割の遂行状態・経済状況・介護力
2. 健康障害のある成人・老年期の対象の健康レベル・発達段階に応じた日常生活援助を安全・安楽に実施できる	1) 健康障害や加齢に応じたコミュニケーション方法を実践する 対象の考えや思いや価値観に配慮し尊重する姿勢・目標や関心事等の共有・看護者のまなざしや声掛けやタッチング・対話と共感・対象に応じた声の大きさや言葉遣い 2) 健康障害や加齢に伴う ADL・IADL を考慮した日常生活の援助を実践する ADL と IADL の把握・日常生活動作の改善や向上への援助 3) 安全な環境調整と危険防止の援助を実践する 外的要因と内的要因に応じた環境調整・見守りの意味・対象へ配慮した援助の工夫 4) 対象の思いに考慮した援助を述べる 対象のニーズや強み、○○したいという意欲や自立
3. 健康障害のある成人・老年期の対象の検査・治療・処置に伴う影響を理解し援助ができる	1) 治療・検査・処置が対象に与える影響を述べる 治療への参加態度・今後予測される症状の変化・治療目的の把握・治療効果のモニタリング 2) 対象にとって安全安楽な治療・検査・処置の援助を実践する 合併症予防の実践・病状の安定化への援助
4. 健康障害のある成人・老年期の対象とその家族の継続看護に向けた援助が理解できる	1) 対象とその家族の今後の生活に向けた援助を述べる 日常生活の規制とその受け止め方・セルフケアや症状マネジメントの把握と援助の理解 2) 対象に必要な退院支援を述べる 退院先の把握（自宅・施設）・療養の場に応じた医療やケアの把握
5. 看護者としての必要な態度を養うことができる（共通目標）	1) 相手（患者・家族・医師・看護師）を尊重し思いやる姿勢 (1) その場の状況にふさわしい行動 (2) 身だしなみ (3) 誠実な態度 (4) 体調管理 2) 学習に対しての主体的な取り組み (1) 事前学習 (2) 自己の課題への取り組み（看護技術の自己研鑽・文献検索） (3) 最善の看護の提供を追求 (4) カフェリス・振り返り会等の積極的な意見（他者の意見を受け止め自己の考えを表現） (5) 期限の厳守（提出物・約束事）

実習目標	行動目標/学習内容
	3) 報告・連絡・相談 (1)自分の行動を言語化する (2)要点を整理して伝える (3)相手の状況や反応を確認しながら優先度を考えて伝える (4)タイムリーに報告する (5)連絡することにより情報を共有する (6)気がかりや確信がもてないことなどについて相談する 4) チームワークを考えた行動 (1) チーム内の相互の役割調整 (リーダーシップ・メンバーシップ) (2) アサーティブなコミュニケーションがとれる (3) 得た情報を交換し対応を考える 5) 安全管理への配慮 (1) 感染対策の徹底 (2) 医療事故防止のための意見交換 (3) 医療事故防止のための共有化 (4) 日々の生活の中で事故防止のための行動 (環境整備などリスクを考えた行動) (5) 個人情報管理 (記録物の管理を含む) 6) 自己の実習の振り返りと看護観の形成 (1) 自己の傾向の振り返り (分析) (2) 自己の課題の明確化 (3) 大切にしていきたい看護 (自分の目指す看護像・自己と向き合い課題解決のための行動)

2. 成人・老年看護学実習Ⅱ (急性期・回復期)

1) 実習目標

- | | | |
|---|---|----|
| <ul style="list-style-type: none"> (1) 合併症予防のための観察ができる (2) 自己管理に向けた看護援助について述べる (3) 手術室の看護の実際を述べる：手術室 (4) 生命の危機的状況にある患者・家族の看護の実際を述べる：救急外来・救命救急センター (5) 看護者としての必要な態度を養うことができる (共通目標) | } | 病棟 |
|---|---|----|

2) 実習期間・場所・時間

- (1) 実習期間：2年次 第2学期～3年次 (詳細は学生配置表参照)
- (2) 実習場所：浜田医療センター 3階北病棟・3階南病棟
- (3) 実習時間：90時間 (2単位) 実習1単位時間：45分

内容	時間	詳細	
—	—	8:30～9:00	実習前準備 健康状態、身だしなみの確認、出席報告 記録物・提出物の確認
臨地実習	80H	9:00～16:00 (8時間/日)	1日目～10日目 受け持ち患者の看護、手術室・救命救急センター実習 ※臨地でのカンファレンス等は16:45まで実施可 ※手術室実習は最大18:00まで実施可
実践活動外 学習時間	10H	16:00～16:45 (1時間/日)	記録整理・文献学習・技術演習・カンファレンス準備・教員からの指導

※6日目以降にカンファレンス、最終日に振り返り会実施予定。救命救急センターでの実習は手術見学等のスケジュールを考慮して調整。

3) 学習内容

実習目標	行動目標/学習内容
1. 合併症予防のための観察ができる	1) 手術前から合併症を予測した情報収集ができる (1) 手術前検査 (2) 既往歴 (3) 対象の手術に対する心理 2) 収集したデータを基に合併症リスクを予測できる (1) 手術侵襲における生体反応 (ムア)の分類 (2) 呼吸・循環・意識・創部・消化管への影響 3) 精神的に安定した状態で手術が受けられるよう援助できる (1) 手術・麻酔に対する受け止め、理解度の把握 (2) 不安・恐怖心の軽減 (3) ホテイイメージ変容に対する支援 4) 術後の経過に合わせた観察ができる (1) 術後のフィジカルアセスメント (2) ドレイン排液・点滴・チューブ類の観察 ①異常の早期発見・予知 ②系統的・継続的な観察と記録 ③多面的な観察からの患者のニーズの予測 ④安全・安楽・安心のケア 5) 観察結果を基に術後合併症のアセスメントができる (1) 急性疼痛の弊害：身体への影響・心理社会的側面への影響 (2) 検査データ・薬物動態 (3) ADLアセスメント 6) 術後合併症予防のための援助を実施できる (1) 症状・合併症予防の援助 ①呼吸循環動態の維持・促進 ②術後合併症および廃用性症候群の予防(術後出血・循環器合併症・呼吸器合併症・感染症・廃用症候群) ③治療箇所の治癒促進および負担の軽減 ④苦痛緩和と安楽・安心の促進 (2) 創傷管理 ①薬理学的方法による鎮痛ケア ②疼痛の影響要因をコントロールする看護技術 (3) ドレイン管理 (4) 清潔操作
2. 自己管理に向けた看護援助について述べる	1) 患者・家族の入院前の生活状況を述べる (1) 生活スタイル・社会的立場・入院前の役割 (2) キーパーソン・ソーシャルサポートの有無 2) 患者・家族の形態変化や機能障害に対する適応への援助についての必要性和実践方法を述べる (1) 回復促進のための援助 ①酸素化の促進 (2) 栄養管理 ③体液バランスの管理 (4) 感染予防 (2) 日常生活再構築のためのリハビリテーション促進の援助 (呼吸・循環・運動器・消化器への影響) 3) 患者・家族の心理的状況を考慮した看護援助を述べる (1) 精神活動への影響 (2) ホテイイメージの受容状況
3. 手術室の看護の実際を述べる	1) 手術室における安全管理の実際を述べる (1) 患者の確認 (2) 手術部位の確認

実習目標	行動目標/学習内容
	<ul style="list-style-type: none"> (3) 安全な移乗・移送 (4) 器械・器具、ガーゼの確実な確認 (5) 標本の正しい取り扱い (6) 無菌操作 (7) 他職種との連携 2) 手術侵襲が患者に及ぼす影響を述べる <ul style="list-style-type: none"> (1) 麻酔導入時の看護 <ul style="list-style-type: none"> ①全身麻酔・硬膜外麻酔・脊椎麻酔の介助 ②気管挿管の介助 ③麻酔導入時のバイタルサイン変動の観察と対応 (2) 手術中の看護 <ul style="list-style-type: none"> ①手術中のバイタルサイン変動の観察方法（モニター・触知） ②手術中の変動に対する援助 ③手術中の体位と注意点 (3) 麻酔覚醒時の看護 <ul style="list-style-type: none"> ①麻酔覚醒時の観察 ②麻酔覚醒後手術室退室までの身体観察と援助 (4) 病棟への引継ぎ（申し送り）
<p>4. 生命の危機的状況にある患者・家族への看護の実際を述べる</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1) 救急外来の特徴を述べる <ul style="list-style-type: none"> (1) 搬入患者の特徴 (2) 初期情報からのアセスメント・トリアージ (3) 治療環境・物品管理 2) 集中治療を受ける患者の看護の特徴を述べる <ul style="list-style-type: none"> (1) 患者の身体的特徴、心理・社会的特徴 (2) 意識レベル・フィジカルアセスメントや援助実施における観察 (3) 生命の危機的状況にある患者・家族の心理への支援 <ul style="list-style-type: none"> ①家族の特徴 ②危機的状況への支援・意思決定支援
<p>5. 看護者としての必要な態度を養うことができる（共通目標）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1) 相手（患者・家族・医師・看護師）を尊重し思いやる姿勢 <ul style="list-style-type: none"> (1) その場の状況にふさわしい行動・言葉遣い (2) 身だしなみ (3) 誠実な態度 (4) 体調管理 2) 学習に対しての主体的な取り組み <ul style="list-style-type: none"> (1) 事前学習 (2) 自己の課題への取り組み（看護技術の自己研鑽・文献検索） (3) 最善の看護の提供を追求 (4) カンファレンス・振り返り会等の積極的な意見交換（他者の意見を受け止め自己の考えを表現） (5) 期限の厳守（提出物・約束事） 3) 報告・連絡・相談 <ul style="list-style-type: none"> (1) 自分の行動を言語化する (2) 要点を整理して伝える (3) 相手の状況や反応を確認しながら優先度を考えて伝える (4) タイムリーに報告する (5) 連絡することにより情報を共有する (6) 気がかりや確信がもてないことなどについて相談する 4) チームワークを考えた行動 <ul style="list-style-type: none"> (1) チーム内の相互の役割を調整する（リーダーシップ・メンバーシップ） (2) アサーティブなコミュニケーションがとれる (3) 得た情報を交換し対応を考える

実習目標	行動目標/学習内容
	5) 安全管理への配慮 (1) 感染対策の徹底 (2) 医療事故防止のための意見交換 (3) 医療事故防止のための共有化 (4) 日々の生活の中で事故防止のための行動（環境整備などリスクを考えた行動） (5) 個人情報管理（記録物の管理を含む） 6) 自己の実習の振り返りと看護観の形成 (1) 自己の傾向の振り返り（分析） (2) 自己の課題の明確化 (3) 大切にしていきたい看護（自分の目指す看護像・自己と向き合い課題解決のための行動）

3. 成人・老年看護学実習Ⅲ（慢性期）

1) 実習目標

- (1) 健康障害と共に生活する対象の全体像を理解する
- (2) 慢性的な経過の健康障害の程度に応じた対象の援助ができる
- (3) 慢性的な経過をたどる対象の障害受容に向けた精神的支援の必要性を理解する
- (4) 対象および家族へ自己管理能力獲得のための支援ができる
- (5) 継続看護、多職種との連携の重要性について理解する
- (6) 看護者としての必要な態度を養うことができる（共通目標）

2) 実習期間・場所・時間

- (1) 実習期間：2年次 第2学期～3年次（詳細は学生配置表参照）
- (2) 実習場所：浜田医療センター 4階南病棟・5階北病棟
- (3) 実習時間：90時間（2単位） 実習1単位時間：45分

内容	時間	詳細	
—	—	8:30～9:00	実習前準備 健康状態、身だしなみの確認、出席報告 記録物・提出物の確認 教育当番は、8:45までに出席・健康状態を担当へ報告する
臨地実習	80	9:00～16:00（8時間/日）	8:55までに実習場所へ到着する 1日目：9:00～15:00 午前オリエンテーション、受け持ち患者紹介、情報収集 休憩は12:00～13:00（見学や援助により時間調整可）
実践活動外 学習時間	10	16:00～16:45（1時間/日）	記録整理、文献学習、実技練習、カンファレンス準備、教員の指導を受ける、 臨地でのカンファレンスは16:45まで設定可

3) 学習内容

実習目標	行動目標/学習内容
1. 健康障害と共に生活する対象の全体像を理解する	1) 対象の不可逆的な病態の変化による健康障害の理解ができる (1) 入院までの状態 (2) 入院前の生活状況 (3) 入院から現在までの健康障害に対する治療過程・回復状態を述べる (4) 現在の状態（検査の結果）などから、増悪した場合のリスクを予測する (5) 身体に加齢変化

	<ul style="list-style-type: none"> (6) 残存機能 (7) 身体的 ADL/手段的 ADL (8) 検査・治療内容 <p>2) 対象が長期にわたる健康障害をどのように受け止めているかについて理解ができる</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 役割喪失による無力感 (2) 孤独感 (3) 生きがい (4) 家族の支え (5) 発達課題 <p>3) 長期にわたる健康障害が社会的役割に与える影響の理解ができる</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 社会での役割 (2) 家族関係 (3) キーパーツの有無 (4) 対人関係 (5) 家屋の状況 (6) 生活環境 (7) 入院前の社会資源の利用状況
2. 慢性的な経過の健康障害の程度に応じた対象の援助ができる	<p>1) 健康障害に伴う日常生活の援助ができる</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 症状・治療に伴う日常生活の援助 (2) 運動機能障害に伴う日常生活の援助 (3) 侵襲の大きい治療に伴う日常生活の援助 (4) QOL を考えた援助 <p>2) 慢性期疾患に関連する合併症予防の援助ができる</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 症状の進行に伴う合併症の予防 (2) 治療に伴う二次合併症予防 (3) 廃用症候群の予防 <p>3) 安全の確保ができる</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 転倒・転落予防 (2) 誤嚥・窒息予防 (3) せん妄の対応 (4) 認知症の対応
3. 慢性的な経過をたどる対象の障害受容に向けた精神的支援の必要性を理解する	<p>1) 長期にわたり疾病のコントロールが必要となる対象・家族の障害受容段階がわかる</p> <p>2) 対象・家族の障害受容の段階に応じた支援方法がわかる</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 傾聴、受容、共感的態度 (2) ストレンガス・エンパワメント <p>3) 対象の想いを表出する支援がわかる</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 対象自らどのようにしたいのかを考える機会の提供 <p>4) 自己決定への支援がわかる</p>
4. 対象および家族へ自己管理能力獲得のための支援ができる	<p>1) 社会復帰に向けた自己管理能力拡大への援助ができる</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 自立度に応じた日常生活の指導 (2) 自己モニタリングの方法を指導 (3) 動機づけを考慮した指導（アット・ラゴジー・自己効力感・行動変容モデル） <p>2) 対象に合わせた指導・教育・援助ができる</p> <ul style="list-style-type: none"> (1)セルフケア能力に合わせた援助の内容・方法
5. 継続看護、多職種との連携の重要性について理解する	<p>1) 退院後、生活能力を維持し日常生活が継続できるための援助がわかる</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 継続看護（外来・在宅・施設） (2) 退院支援に向けての関連職種（ソーシャルワーカー・ケアマネジャー・退院調整看護師 他） (3) 関連職種との連携の必要性とその内容 (4) 活用可能な社会資源・経済支援のための制度
6. 看護者として必要な態度を養うことが出来る（共通目標）	<p>1) 相手（患者・家族・医師・看護師）を尊重し思いやる姿勢</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) その場の状況にふさわしい行動 (2) 身だしなみ (3) 誠実な態度 (4) 体調管理 <p>2) 学習に対しての主体的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 事前学習

	<ul style="list-style-type: none"> (2) 自己の課題への取り組み（看護技術の自己研鑽・文献検索） (3) 最善の看護の提供を追求 (4) カンファレンス・振り返り会等の積極的な意見(他社の意見を受け止め自己の考えを表現) (5) 期限の厳守（提出物・約束事） <p>3) 報告・連絡・相談</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 自分の行動を言語化する (2) 要点を整理して伝える (3) 相手の状況や反応を確認しながら優先度を考えて伝える (4) 連絡することにより情報を共有する (5) 気がかりや確信がもてないことなどについて相談する <p>4) チームワークを考えた行動</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) チーム内の相互の役割調整（リーダーシップ・メンバーシップ） (2) アサーティブなコミュニケーションがとれる (3) 得た情報を交換し対応を考える <p>5) 安全管理への配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 感染対策の徹底 (2) 医療事故防止のための意見交換 (3) 医療事故防止のための共有化 (4) 日々の生活の中で事故防止のための行動（リスクを考えた行動） (5) 個人情報管理（記録物の管理を含む） <p>6) 自己の実習の振り返りと看護観の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 自己の傾向の振り返り（分析） (2) 自己の課題の明確化 (3) 大切にしていきたい看護について考え表現（自分の目指す看護像・自己と向き合い課題解決のための行動）
--	--

4. 成人・老年看護学実習Ⅳ（終末期）

1) 実習目標

- (1) 対象が持つ全人的苦痛とは身体的苦痛・精神的苦痛・社会的苦痛・スピリチュアルな苦痛が関連していることが理解できる
- (2) 対象の全人的苦痛の緩和の方法を理解し、援助を実施することができる
- (3) QOLを考慮した日常生活援助を看護師と共に実施することができる
- (4) 対象を尊重し、闘病を支える家族へのケアが理解できる
- (5) チームアプローチの実際と調整役としての看護の役割がわかる
- (6) 看護者としての必要な態度を養うことができる（共通目標）

2) 実習期間・場所・時間

- (1) 実習期間：2年次 第2学期～3年次（詳細は学生配置表参照）
- (2) 実習場所：浜田医療センター 5階南病棟
- (3) 実習時間：90時間（2単位） 実習1単位時間：45分

内容	時間	詳細	
		8:30～9:00	実習前準備 健康状態、身だしなみの確認、出席報告 記録物・提出物の確認
臨地実習	80	9:00～16:00（8時間/日）	8:55までに実習場所へ到着する
実践活動外 学習時間	10	16:00～16:45(1時間/日)	記録整理・文献検索・技術演習・カンファレンス 臨地でのカンファレンス等は15:30以降に設定可

3) 学習内容

実習目標	行動目標/指導内容
1. 対象が持つ全人的苦痛とは、身体的苦痛・精神的苦痛・社会的苦痛・スピリチュアルな苦痛が関連していることが理解できる	1) 身体的側面を述べる (1) 病態と予後 (2) 症状の有無と程度 (3) 対象の基本的ニーズとその逸脱 (4) 治療・処置・検査の目的 (5) 症状マネジメント 2) 精神的側面を述べる (1) 告知の有無と心理的影響 (2) インフォームド・コンセント (3) 対象の疾患や症状に対する受け止め (4) 死の受容過程 3) 社会的側面を述べる (1) 社会的役割の変化 (家庭・職場・地 (2) 家族間の人間関係 (3) 経済的問題の有無 (4) 医療者と家族との関係 4) スピリチュアルな側面を述べる (1) 対象の生と死に関する考え方 (死生観) (2) 信仰 (宗教)、個人の信念、ライフスタイル、生きがい、価値観
2. 対象の全人的苦痛の緩和の方法を理解し、援助が実施できる	1) 身体的苦痛の援助、精神的苦痛の援助、社会的苦痛の援助、スピリチュアルな苦痛に気づき援助が実施できる 2) 危篤時、看取りの援助が理解できる (1) 急変時・看取り時の身体変化の理解と気づき (対象および家族の希望) (2) 急変時・看取り時の援助 (対象および家族の希望) 3) 安全を考慮した援助を実施する (1) 転倒・転落予防 (2) 窒息予防 (3) 皮膚損傷予防
3. 対象の希望を考慮した日常生活援助を看護師と共に実施できる	1) 対象の希望、生きがい、その人らしさを考慮した日常生活援助を計画できる (1) 食事の意味を考慮した援助 (2) 排泄の援助、尊厳への配慮 (3) 清潔・整容の援助 (4) 睡眠の確保 (5) 物理的・人的環境の調整 2) 対象の希望、生きがい、その人らしさを踏まえた援助が実施できる
4. 対象を尊重し、闘病を支える家族へのケアが理解できる	1) 対象、家族が大切にされていることの理解ができる 2) 対象と家族を尊重した態度がとれる 3) 家族の疾患や症状に対する受け止めが把握できる 4) 対象と家族の心理過程に応じた援助が実施できる (1) キューパー・ロス、アギェラ、メグック (2) グリーフケア
5. チームアプローチの実際と調整役としての看護師の役割が理解できる	1) 対象、家族へのチームアプローチの実際が分かり、調整役としての看護師の役割が理解できる (1) 病棟内でのカンファレンスにおける看護師の役割 (2) 他職種での回診における看護師の役割
6. 看護師として必要な態度を養うことができる(共通目標)	1) 相手 (患者・家族・医師・看護師) を尊重し思いやる姿勢 (1) その場の状況にふさわしい行動・言葉遣い (2) 身だしなみ (3) 誠実な態度 (4) 体調管理 2) 学習に対しての主体的な取り組み

実習目標	行動目標/指導内容
	<ul style="list-style-type: none"> (1) 事前学習 (2) 自己の課題への取り組み（看護技術の自己研鑽・文献検索） (3) 最善の看護の提供を追求 (4) カフェニス・振り返り会等の積極的な意見交換（他者の意見を受け止め自己の考えを表現） (5) 期限の厳守（提出物・約束事） 3）報告・連絡・相談 <ul style="list-style-type: none"> (1) 自分の行動を言語化する (2) 要点を整理して伝える (3) 相手の状況や反応を確認しながら優先度を考えて伝える (4) タイムリーに報告する (5) 連絡することにより情報を共有する (6) 気がかりや確信がもてないことなどについて相談する 4) チームワークを考えた行動 <ul style="list-style-type: none"> (1) チーム内の相互の役割を調整する（リーダーシップ・メンバーシップ） (2) アサーティブなコミュニケーションがとれる (3) 得た情報を交換し対応を考える 5) 安全管理への配慮 <ul style="list-style-type: none"> (1) 感染対策の徹底 (2) 医療事故防止のための意見交換 (3) 医療事故防止のための共有化 (4) 日々の生活の中で事故防止のための行動（環境整備などリスクを考えた行動） (5) 個人情報管理（記録物の管理を含む） 6) 自己の実習の振り返りと看護観の形成 <ul style="list-style-type: none"> (1) 自己の傾向の振り返り（分析） (2) 自己の課題の明確化 (3) 大切にしていきたい看護（自分の目指す看護像・自己と向き合い課題解決のための行動）

小児看護学実習の考え方

「小児看護学実習」では、実際に子どもと接し、健康な小児の理解と健康障害を持つ小児の看護が展開できることを目的とし学習をすすめる。「保育所実習」では、地域の中で生活する小児を成長発達の見点で理解し、保育の実際を通して基本的な生活習慣や社会性の発達を促す援助方法を学ぶ内容とした。「小児病棟実習」では疾病あるいは障害をもつ小児およびその家族との関係の持ち方を学ぶ内容とした。更に、疾病・障害、入院が小児およびその家族に及ぼす影響を理解し、看護に必要な観察、アセスメントを行い小児とその家族に必要な援助を判断した上で援助の実際について学ぶ内容とした。実習を通して、小児をとりまく保健・医療・福祉の連携の中で小児看護にはどのような役割があるのかを学ぶ内容とした。

科目名	単位	時間	目的
小児看護学実習	2	90	子ども及び家族に対して成長・発達段階、健康段階に応じた看護が実践できる

小児看護学実習

1) 実習目標

- (1) 子どもの成長発達段階とその家族を総合的に理解できる
- (2) 成長発達段階に応じた基本的な生活習慣の獲得への援助、健康障害に応じた日常生活援助ができる
- (3) 小児各期に起こる事故の特徴を理解し、事故防止に努めることができる
- (4) 子どもの健康段階、治療過程に応じた援助が理解できる
- (5) 子どもとその家族に関心を寄せ、小児の基本的権利を尊重した態度を身につけることができる
- (6) 子どもが利用できる社会資源を理解できる
- (7) 看護者としての必要な態度を養うことができる（共通目標）

2) 実習期間・場所・時間

(1) 実習期間：2年次 第2学期～3年次（詳細は学生配置表参照）

(2) 実習場所：浜田医療センター 4階北病棟 小児科外来 保育所

<保育所 施設内訳>

施設	住所	電話番号
社会福祉法人さくら会 みのり保育園	〒697-0034 浜田市相生町1392-11	0855-23-5686
社会福祉法人さくら会 みのり第2保育園	〒697-0034 浜田市相生町3973-5	0855-25-7771
おおぞら保育園（浜田医療センター内）	〒697-8512 浜田市浅井町777-12	内線6700

(3) 実習時間：90時間（2単位） 実習1単位時間：45分

内容	時間	詳細
臨地実習	保育所	40 9:00～16:00（8時間/日） ※3,4日目は15:30移動し帰校する。
	病棟・外来	40 9:00～16:00（8時間/日） <外来 火・金> 13:00～16:00（3時間）2日間 ※それ以外の基本は病棟実習、入院患者不在時は外来実習とする
実践活動外学習時間	10 16:00～16:45（1時間/日）	・実習振り返り、学びの共有 ・明日の看護の方向性の明確化 ・健康教育の準備・デモスト

※基本は保育所実習の後、小児病棟・外来実習とする。

3) 学習内容

実習目標	行動目標/学習内容
<p>1. 子どもの成長発達段階とその家族を総合的に理解できる</p>	<p>1) 子どもの成長・発達段階を理解する</p> <p>(1) 身体(形態・機能的)発達</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体の発育 身長・体重、身体のバランス・身体発育の評価/・骨、歯の発達 ・パーセンタイル値、カブ指数、ロール指数 <p>(2) 精神・運動・感覚機能的発達</p> <ul style="list-style-type: none"> ・改訂日本版デンバー式発達スクリーニング検査 <p>(3) 知的機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピアジェの認知発達理論 (乳幼児期：感覚運動位相、前操作位相) ・コミュニケーション機能 <p>(4) 情緒・社会的特徴と発達</p> <ul style="list-style-type: none"> ・愛着形成と分離不安、性差 ・自律性・自発性 ・エリクソン自我発達理論(乳幼児期：基本的信頼感対不信感、自律感対恥・疑惑、積極性対罪悪感) <p>2) 子どもの日常生活状の況を把握する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣の自立段階 (食事、排泄、清潔、更衣、睡眠)、遊び、学習 <p>3) 子どもに対する家族の関わり方を知り、現在の子どもの状況と関連づけられる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボウルビエのアタッチメント理論 (愛着形成)、マラーの分離-固体化理論 ・生育歴(親子関係)から生じる問題
<p>2. 成長発達段階に応じた基本的生活習慣の獲得への援助、健康障害に応じた日常生活援助ができる</p>	<p>1) 成長発達段階と病状に応じた関わりをする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病状に配慮したコミュニケーション方法・説明の工夫 ・必要な休息を含めた生活のリズムの考慮 <p>2) フィジカルアセスメントを行い、全身状態を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正確な計測・観察 <p>3) 子どもと家族にとって、最適な生活環境の調整をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全の確保、環境整備、家族の協力を得る ・プライバシーの保護、安心できる環境の工夫 <p>4) 発達段階や健康障害に応じた日常生活援助を実施する</p> <p>(1) 基本的な生活習慣の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活行動の把握 ・生活環境の把握・活動と休息の一日の流れとしての捉え ・生活環境 (保育所の規則・行事・日課) <p>(2) 発達段階に応じた基本的生活習慣の確立への援助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事 (食事の調理形態、必要摂取量、アレルギー) と食行動 ・おやつ意義・工夫 ・排泄行動、トイレトレーニングの関わり ・清潔行動・衣服の着脱、感染予防など ・睡眠 (レム、ノンレム、午睡) ・休息と活動・運動 <p>(3) 発達段階や健康障害に応じた日常生活援助の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事、排泄、睡眠、清潔、更衣、遊び、学習 <p>(4) 成長発達段階に応じた遊びや学習の援助の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊びの意義 ・遊びと成長発達の関連 ・成長・発達段階に応じた遊び ・遊びの内容・遊具玩具の選択 ・想像・発想力、興味関心の広がり、遊びと社会性の発達 ・友達・保育士・他の人との関係と関わりへの反応

実習目標	行動目標/学習内容
	<p>子ども間のトラブルと対処方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族への情報提供・依頼
<p>3. 小児各期に起こる事故の特徴を理解し、事故防止に努めることができる</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 小児各期に起こる事故の特徴を理解する <ol style="list-style-type: none"> (1) 事故の起きやすい場所・原因 <ul style="list-style-type: none"> ・生活環境（保育所の構造・施設・設備） ・発達上の特性 (2) 事故の危険性を把握し、安全に対する配慮 <ul style="list-style-type: none"> ・保育環境 ・物的環境 ・人的環境 (3) 施設が行っている安全対策 <ul style="list-style-type: none"> ・外部侵入者への対策 ・園外保育時の危険性と対策 2) 成長発達段階、健康レベルに応じた事故防止の援助を実践する <ul style="list-style-type: none"> ・保育、病室環境の整備（危険物の除去、寝具の整理整頓） ・危険な行動の説明 ・家族への説明、指導 3) 感染予防の援助を実践する <ul style="list-style-type: none"> ・スタンダードプリコーション 4) 健康の保持増進のための支援（健康教育）を実施する <ol style="list-style-type: none"> (1) 健康状態の把握と対処方法の理解 (2) 健康管理の必要性の理解 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもを取り巻く諸環境 ・育児不安 ・事故(誤飲、窒息、転倒・転落、交通事故など) ・不適応行動 ・感染 ・アレルギー（アレルギー性疾患、ハウスダストなど） (3) 健康教育の実施の振り返りと改善
<p>4. 子どもの健康段階、治療過程に応じた援助が理解できる</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 病状と行われている診療内容を理解する <ul style="list-style-type: none"> ・薬剤の用量の算出含む 2) 健康障害・入院による環境の変化とその影響について理解する <ul style="list-style-type: none"> ・健康障害や診療・入院が子どもと家族・きょうだいに及ぼす影響 ・健康障害の経過による特徴 ・入院前の生活からの変化と問題 3) 子どもや家族が示している苦痛とその原因を理解する <ul style="list-style-type: none"> ・健康障害・入院を子どもと家族がどのように受け止めているかを理解する ・子どもの苦痛の捉え方（痛みなどの症状・活動制限による苦痛・不安） 4) 小児看護の視点から対象の状況を分析し理解する <ul style="list-style-type: none"> ・情報の整理、アセスメント 5) 看護上の問題点を把握し、看護計画を立案・評価・修正する <ul style="list-style-type: none"> ・健康障害の経過による特徴をふまえた援助計画 ・痛みなどの症状・活動制限・不安緩和と安楽への援助計画
<p>5. 子どもとその家族に関心を寄せ、小児の基本的権利を尊重した態度を身につけることができる</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1) 子どもに説明、了解を得てから行動し小児の基本的権利を尊重した関わりができる <ol style="list-style-type: none"> (1) 看護実践における小児の権利と擁護の援助 (2) 治療・検査・処置の援助方法と配慮を理解する <ul style="list-style-type: none"> ・プレパレーション、インフォームドコンセント、インフォームドアセント ・デストラクション

実習目標	行動目標/学習内容
	<ul style="list-style-type: none"> ・安全・安心のための工夫 ・患児・家族への細やかな説明と納得 ・患児・家族の治療参加を促す <p>(2) 関わりが子どもにどのような影響を与えるかを考える</p> <p>1) 家族や周囲の大人が関わった時の子どもの反応の理由・意味</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもに与える影響：安心、学習（しつけ）、意欲など ・家族の小児に対する思いに対する配慮
<p>6. 子どもが利用できる社会資源を理解できる</p>	<p>1) 子どもを守り支える法律・制度、事業、施設などの社会資源を理解する</p> <p>(1) 継続看護の意義 外来との連携</p> <p>(2) 他職種との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康福祉センター（県） ・保健センター（市町村）、学童保育、放課後デイケア、病児、病後児保育 ・児童相談所 ・学校・保育園 <p>(3) 小児を保護する法律と保健対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童福祉法 ・母子保健法（養育医療） ・予防接種法 ・障害者総合支援法 ・小児慢性特定疾患治療研究事業 小児慢性特定疾患
<p>7. 看護者として必要な態度を養うことができる (共通目標)</p>	<p>1) 相手（患者・家族・医師・看護師・多職種）を尊重し思いやることができる</p> <p>(1) その場の状況にふさわしい行動・言葉遣い</p> <p>(2) 身だしなみ</p> <p>(3) 誠実な態度</p> <p>(4) 体調管理</p> <p>(5) 乳幼児を尊重し、思いやりの姿勢をもったコミュニケーションがとれる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どものペースに合わせた会話 ・子どもの思いを聴く姿勢（待つ、理解する気持ち） ・子どもの特徴、反応をとらえた行動・話しかけ/子どもの関心事 ・子どもに合わせた言葉づかい ・子どもと視線を合わせる <p>2) 学習に対しての主体的な取り組み</p> <p>(1) 事前学習</p> <p>(2) 自己の課題への取り組み（看護技術の自己研鑽・文献検索）</p> <p>(3) 最善の看護の提供を追求</p> <p>(4) カンファレンス・振り返り会等の積極的な意見交換（他者の意見を受け止め、自己の考えを表現）</p> <p>(5) 期限の厳守（提出物・約束事）</p> <p>3) 報告・連絡・相談する</p> <p>(1) 自分の行動を言語化する</p> <p>(2) 要点を整理して伝える</p> <p>(3) 相手の状況や反応を確認しながら優先度を考えて伝える</p> <p>(4) タイムリーに報告する</p> <p>(5) 連絡することにより情報を共有する</p> <p>(6) 気がかりや確信がもてないことなどについて相談する</p> <p>4) チームワークを考えた行動</p>

実習目標	行動目標/学習内容
	<ul style="list-style-type: none"> (1) チーム内の相互の役割を調整する (リーダーシップ・メンバーシップ) (2) アサーティブなコミュニケーションがとれる (3) 得た情報を交換し対応を考える 5) 安全管理への配慮 <ul style="list-style-type: none"> (1) 感染対策の徹底 (2) 医療事故防止のための意見交換 (3) 医療事故防止のための共有化 (4) 日々の生活の中で事故防止のための行動 (環境整備などリスクを考えた行動) (5) 個人情報管理 (記録物の管理を含む) 6) 自己の実習の振り返りと看護観の形成 <ul style="list-style-type: none"> (1) 自己の傾向の振り返り (分析) (2) 自己の課題の明確化 (3) 大切にしていきたい看護 (自分の目指す看護師像・自己と向き合い課題解決のための行動)

母性看護学実習の考え方

「母性看護学実習」では、正常妊娠の経過と正常な妊産婦、褥婦、新生児の看護の実際を学習する機会とする。母性看護技術の修得とともに、母性看護の対象を幅広くとらえた看護実践の基礎を学ぶ内容とした。そのために、母児を対象の中心としながらもさらにその家族、社会背景、母児とその家族を擁護する社会制度（行政・地域サービス）まで考えられるような実習としていく。

科目名	単位	時間	目的
母性看護学実習	2	90	マタニティケアにある対象を理解し、妊婦・産婦・褥婦・新生児に対する健康維持・促進・回復のための看護が実践できる基礎的能力を養う

母性看護学実習

1) 実習目標

- (1) マタニティケアにある対象を理解し、正常な経過を促進するための援助の方法が理解できる
- (2) 新生児の生理的特徴を理解し、胎外生活適応への援助が理解できる
- (3) 母児の関係確立、新たな家族役割への適応を促す援助ができる
- (4) 生命の誕生に立ち会うことにより生命の尊厳・神秘性について考え、自己の母性観・父性観を深める
- (5) 看護者として必要な態度を養うことができる（共通目標）

2) 実習期間・場所・時間

- (1) 実習期間：2年次 第2学期～3年次（詳細は学生配置表参照）
- (2) 実習場所：浜田医療センター 4階北病棟 浜田市子育て世代包括支援センター「すくすく」
うい助産院

<詳細>

施設名	時間数	住所	電話番号
浜田医療センター 4階北病棟（新生児室）・産婦人科外来	72時間 (8日間)		
浜田市子育て世代包括支援センター「すくすく」	9時間 (1日間)	浜田市野原町 859-1	0855-22-1253
うい助産院	9時間 (1日間)	浜田市牛市町 82 2階	050-3631-8330

- (3) 実習時間：90時間（2単位） 実習1単位時間：45分

	1日目	2日目	3～4日目	6日目	7～9日目	10日目
9:00～16:00	AM 病棟オリエンテーション	浜田医療センター4階北病棟（新生児室）・産婦人科外来 うい助産院 浜田市子育て世代包括支援センター「すくすく」				
16:00～ 16:45	実践活動外学習時間（学内）					
カンファレンス等			カンファレンス	カンファレンス 中間評価	カンファレンス	振り返りの会

3) 学習内容

実習目標	行動目標/学習内容
1. マタニティケアにある対象を理解し、正常な経過を促進するための援助の方法が理解できる	1) 妊娠期における対象の理解 (1) 妊娠による母体の変化 生殖器における変化、初産婦・経産婦の区別、妊娠による全体的変化(体重、皮膚、代謝、呼吸器系、循環器系、消化器系、腎・泌尿器系、内分泌系) (2) 妊婦一般健康診査による母体の生理的变化の把握 妊婦健康診査の目的・方法・内容、受診の回数と間隔、妊婦健康診査受診

実習目標	行動目標/学習内容
	<p>券の利用（公費負担）、血液抗体検査、血液一般、尿検査（蛋白・糖）</p> <p>(3) 正常からの逸脱または逸脱の可能性 妊娠の定義、妊娠週数の確認、予定日の算出</p> <p>(4) 妊娠経過に影響を及ぼす因子 家族背景、労働環境、日常生活</p> <p>(5) 母体の変化に応じたセルフケアの現状 不快症状（マイトラブル）への対処、日常生活（食生活、嗜好品、排泄、清潔、運動姿勢、休息・睡眠、衣生活、性生活、ストレスチェック）</p> <p>(6) 妊娠週数に応じた胎児及び付属物の状態 胎盤の形成と位置、羊水量、胎児の発育、胎動</p> <p>(7) 妊婦の心理・精神状態 身体的・社会的変化に伴う心理、妊娠経過に伴う不安や葛藤</p> <p>(8) 妊婦の心理・精神状態に影響を及ぼす因子 妊娠の受容、家族の反応</p> <p>2) 妊娠期における対象への看護実践</p> <p>(1) 妊婦の健康診査の見学・介助 体重測定、血圧測定、子宮底長・腹囲測定、レボルト触診法（第1段法・第2段法）、ノストレスト、超音波断層法、内診介助（安全安楽を考えた介助、羞恥心への配慮、内診台の操作、昇降の介助、必要物品と清潔操作）</p> <p>(2) 妊婦の心理的な援助 プライバシーへの配慮</p> <p>(3) 早期に受診する必要がある症状</p> <ol style="list-style-type: none"> ①妊娠悪阻 ②流・早産 ③妊娠糖尿病 ④妊娠高血圧症 ⑤常位胎盤早期剥離 ⑥前期破水 <p>(4) 入院が必要な妊婦に対する援助 家族の再調整、出産・育児の準備、日常生活への援助、症状に伴う治療・援助</p> <p>3) 分娩期における対象の理解</p> <p>(1) 分娩の要素と各期の経過 分娩の3要素、分娩の経過</p> <p>(2) 分娩第1～3期の正常な経過 陣痛（発作・間歇）、産痛部位、破水、血性分泌物、子宮口の開大度、排露・発露、胎児娩出、胎盤娩出様式、分娩時出血量、分娩所要時間</p> <p>(3) 分娩進行に影響を及ぼす母体・胎児因子 既往歴、妊娠経過</p> <p>(4) 分娩第4期の正常な経過 分娩後30分、1時間、2時間の子宮収縮の状態と悪露の性状・量、縫合部痛、後陣痛</p> <p>(5) 胎児及び付属物の状態 連続的胎児心拍数モニタリング（CTG）、胎盤の観察と計測</p> <p>(6) 胎児の健康状態に影響を及ぼす母体の健康状態 薬剤・放射線、喫煙、飲酒、既往症の有無、多胎、母体感染・合併症の有無</p> <p>4) 分娩期における対象への看護実践</p> <p>(1) 分娩第1～3期の援助 産婦の基本的ニーズへの援助（水分・栄養補給、清潔、更衣、排泄、睡眠・休息）</p> <p>(2) 産婦の心理的援助 分娩進行に伴う産婦の心理的变化</p> <p>(3) 陣痛（産痛）緩和の援助 分娩を促進させる援助、産痛緩和</p> <p>(4) 子宮内感染防止の援助 スタンダードプリコーション、清潔の保持</p> <p>(5) 家族への援助 家族の分娩に対する思い、産婦に付き添う家族への支援</p> <p>(6) 分娩直後の産婦の援助 早期母子接触</p>

実習目標	行動目標/学習内容
<p>2. 新生児の生理的特徴を理解し、胎外生活適応への援助が理解できる</p> <p>3. 母児の関係確立、新たな家族役割への適応を促す援助ができる</p>	<p>(7) 緊急事態の対処 産科出血、胎児仮死</p> <p>5) 産褥期における対象の理解</p> <p>(1) 生理的变化に影響する因子 年齢、既往歴、妊娠・分娩歴、日常生活動作、授乳の有無</p> <p>(2) 乳汁分泌経過 乳房の変化、乳汁の性状と分泌のしくみ</p> <p>(3) 復古現象の経過 子宮復古と悪露、全身の変化、分娩による損傷</p> <p>(4) 復古現象に影響を与える因子 既往歴、妊娠経過、分娩経過、不快症状（後陣痛、縫合部痛、排尿障害、便秘、脱肛痛）</p> <p>(5) 褥婦の心理状態 分娩に対する思い、新生児に対する思い、母親への適応過程（ルービソ、マニエブル、産後うつ</p> <p>(6) 褥婦の過程・社会環境から退院後の生活の把握 家族構成、家族間の役割調整、生活環境、夫・家族の面会状況、ソーシャルサポート、職場復帰、父親の心理的变化、きょうだいの心理的变化</p> <p>6) 産褥期における対象への看護実践</p> <p>(1) 乳汁分泌促進の援助と指導 直接授乳の介助、乳頭・乳房マッサージなど</p> <p>(2) 乳房・乳頭トラブルの援助 乳頭・乳房マッサージ、巻法、創処置、搾乳 など</p> <p>(3) 復古現象を促す援助 日常生活援助と保健指導（栄養、休息・睡眠、活動、清潔、排泄）、産褥体操</p> <p>(4) 産褥期に起こしやすい感染症の予防への援助 悪露交換・排尿後消毒</p> <p>1) 新生児期における対象の理解</p> <p>(1) 出生直後の児の生理的变化 出生直後の評価（アプガースコア）、成熟度の評価、全身の観察（身体各部の計測、奇形の有無）、応形機能、産瘤・頭血腫</p> <p>(2) 新生児の胎外生活適応過程 体温・呼吸・循環、生理的体重減少、消化・吸収、生理的黄疸、免疫、原始反射、排尿・排便</p> <p>(3) 新生児の栄養状態 栄養方法（母乳・人工乳）、授乳方法（直接授乳、搾乳、哺乳瓶授乳）、授乳量</p> <p>(4) 新生児の胎外生活適応過程を阻害する因子 母体因子、妊娠中の因子、分娩中の因子</p> <p>(5) 新生児に起こりやすい感染症の徴候 敗血症、髄膜炎、臍感染症、新生児結膜炎</p> <p>2) 新生児期における対象への看護実践</p> <p>(1) 出生直後の新生児の看護の見学 アプガースコア、臍帯の処置、低体温の予防、点眼、識別票（ネームバンド）の装着、全身の観察（身体各部の計測、成熟度、奇形の有無）</p> <p>(2) 出生直後の新生児の受け入れ準備 保育環境の準備、産婦受け持ち助産師と新生児室看護師との連携</p> <p>(3) 新生児の胎外生活適応の援助 育児技術（抱き方、寝かせ方、調乳、瓶哺乳・排気、衣服の着脱、沐浴・清拭、臍処置、おむつ交換、環境調整</p> <p>(4) 新生児の診察と検査 経皮的黄疸測定、血清ビリルビン検査、先天性代謝異常検査（ガスリー法）、新生児聴カスクリーニング検査（ABR）、K₂シロップの投与</p> <p>1) 妊娠・分娩・産褥による社会的変化 妊婦と家族（夫婦、きょうだい、祖父母）、職場・地域社会の環境</p> <p>2) 母親役割獲得及び家族との役割調整 母親学級（集団指導）、助産師外来（個別指導）役割モデルの探索、母親の役割獲得過程、出産・育児に対する期待・希望・不安、育児技術獲得への援助と指導（おむつ交換、更衣、授乳指導、沐浴指導）</p> <p>3) 退院後の母児への継続した支援 ・退院指導 ・褥婦の不安アセスメント（助産師と保健師の連携）</p>

実習目標	行動目標/学習内容
<p>4. 生命の誕生に立ち会うことにより生命の尊厳、神秘性について考え、自己の母性観・父性観を深める</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・母乳外来 ・産後2週間健診 ・産後1か月健診 ・周産期カンファレンス（小児科・産科医師、助産師、外来看護師の連携） ・妊婦保健指導外来（医師から助産師に依頼） <p>4) 社会資源の活用や諸制度の説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・妊娠の届出・出生通知書 ・母子健康手帳の交付・活用 ・妊婦健康診査 ・訪問指導 ・市町村の保健指導（母親学級、両親学級） ・乳幼児健診 ・こんにちは赤ちゃん事業 ・特定妊婦・養育支援訪問事業 ・子育て支援サービス ・産後ケア事業 ・低出生体重児の届出 ・未熟児養育医療 ・分娩費（産科医療補償制度・出産育児一時金）、出産手当金 ・出生届（戸籍法） ・死産届（死産の届出に関する規定） ・産前・産後の休暇（労働基準法） ・育児休業（育児休業法） <p>1) 各期の看護実践を通して、自己の母性観・父性観を深める</p> <p>(1) 妊娠期の看護実践</p> <p>(2) 分娩期の看護実践</p> <p>(3) 新生児の看護実践</p> <p>(4) 産褥期の看護実践</p> <p>(5) 母児の関係確立、家族役割適応の看護実践 母親の声のかけ方、新生児へのふれ方、母親の表情、新生児の表情、ホウ乳ビンの愛着行動（アタッチメント）、クウスとケルの母子相互作用、ミルクの基本的信頼の獲得、ルビンの母親役割獲得過程（母親になること）</p> <p>上記（1）～（5）を通して深める</p>
<p>5. 看護師として必要な態度を養うことができる（共通目標）</p>	<p>1) 相手（患者・家族・医師・看護師）を尊重し思いやる姿勢</p> <p>(1) その場の状況にふさわしい行動・言葉遣い</p> <p>(2) 身だしなみ</p> <p>(3) 誠実な態度</p> <p>(4) 体調管理</p> <p>2) 学習に対しての主体的な取り組み</p> <p>(1) 事前学習</p> <p>(2) 自己の課題への取り組み（看護技術の自己研鑽・文献検索）</p> <p>(3) 最善の看護の提供を追求</p> <p>(4) カンファレンス・振り返り会等の積極的な意見交換（他者の意見を受け止め自己の考えを表現）</p> <p>(5) 期限の厳守（提出物・約束事）</p> <p>3) 報告・連絡・相談</p> <p>(1) 自分の行動を言語化する</p> <p>(2) 要点を整理して伝える</p> <p>(3) 相手の状況や反応を確認しながら優先度を考えて伝える</p> <p>(4) タイムリに報告する</p> <p>(5) 連絡することにより情報を共有する</p> <p>(6) 気がかりや確信がもてないことなどについて相談する</p> <p>4) チームワークを考えた行動</p> <p>(1) チーム内の相互の役割を調整する（リーダーシップ・メンバーシップ）</p> <p>(2) アクティブなコミュニケーションがとれる</p> <p>(3) 得た情報を交換し対応を考える</p> <p>5) 安全管理への配慮</p> <p>(1) 感染対策の徹底</p> <p>(2) 医療事故防止のための意見交換</p> <p>(3) 医療事故防止のための共有化</p> <p>(4) 日々の生活の中で事故防止のための行動（環境整備などリスクを考えた行動）</p>

実習目標	行動目標/学習内容
	<ul style="list-style-type: none">(5) 個人情報管理（記録物の管理を含む）6) 自己の実習の振り返りと看護観の形成<ul style="list-style-type: none">(1) 自己の傾向の振り返り（分析）(2) 自己の課題の明確化(3) 大切にしていきたい看護について考え表現（自分の目指す看護像・自己と向き合い課題解決のための行動）

精神看護学実習の考え方

精神看護学実習では、精神に障害のある対象の特徴を理解する。そして、さまざまな制限や症状・障害で日常生活技能が低下している対象に対し、精神の健康障害のレベルに応じた自立に向けた看護を学ぶ。さらに社会復帰を目指した多職種チームの支援について理解する。精神看護は対人関係を基盤とし、看護が行われる。そのため、プロセスレコードにより自己を洞察することで、他者を理解することを学ぶ。対象との関わりを通して、精神に障害がある対象に対する人権擁護や倫理について学ぶ。

科目名	単位	時間	目的
精神看護学実習	2	90	精神に障害のある対象を理解し、看護の実践を通して他者を尊重する姿勢を身につける

精神看護学実習

1) 実習目標

- (1) 疾患及び治療とその影響を解釈し、患者の症状と関連づける
- (2) 患者のセルフケア能力をアセスメントし、ストレングス・リハビリの観点から踏まえながら必要な援助を実践する
- (3) 患者－看護者関係の発展過程を理解し、治療効果を高めるための援助を実践する
- (4) 地域に暮らす精神障害者に必要なサポート体制について知る
- (5) 看護者として必要な態度を養うことができる（共通目標）

2) 実習期間・場所・時間

- (1) 実習期間：2年次 第2学期～3年次（詳細は学生配置表参照）
- (2) 実習場所：浜田医療センター 社会医療法人清和会 西川病院
- (3) 実習時間：90時間（2単位） 実習1単位時間：45分

内容	時間	詳細	
臨地実習	76	13:00～16:00(4時間)	初日
		9:00～16:00(8時間/日)	2日目以降
実践活動外 学習時間	14	9:00～9:45(1時間)	実習オリエンテーション
		9:45～12:00(3時間)	模擬プロセスレコードカンファレンス
		16:00～16:45(1時間/日)	学生控室にて文献検索・技術演習・カンファレンス

3) 学習内容

実習目標	行動目標/学習内容
1. 疾患及び治療とその影響を解釈し、患者の症状と関連づける	<ol style="list-style-type: none"> 1) 疾患の特徴（時期や段階、生活への影響）を述べる 病因・発症からの経過・発達課題の獲得 2) 治療やその影響を述べる <ol style="list-style-type: none"> (1) 薬物療法（作用・副作用） (2) 精神療法（個人療法・集団療法・家族療法） (3) リハビリテーション 3) 疾患・治療による影響だけでなく、生活背景やそれまで培われた価値観、他者との関係性などをふまえて、患者の置かれている状況の気づきを述べる <ol style="list-style-type: none"> (1) 入院歴・家族関係・価値観・他者との関係 (2) 一日の生活行動 (3) 長期入院の実際 退院への意欲の希薄・家族の受け入れが消極的・地域の社会資源が不十分・地域社会の理解不足

実習目標	行動目標/学習内容
<p>2. 患者のセルフケア能力をアセスメントし、ストレングス・リカバリーの観点を踏まえながら必要な援助を実践する</p>	<p>1) 患者のセルフケア能力を評価する</p> <p>(1) セルフケア評価 全介助・部分介助・声かけ見守り・教育指導支援・自立</p> <p>(2) 自己管理能力</p> <p>(3) 普遍的セルフケア要件 十分な空気・水分・食物の摂取 排泄過程と排泄物に関するケア 活動と休息のバランスの維持 孤独と人との付き合いのバランスの維持 個人衛生の維持 生命・機能・健康に関する危険の予知</p> <p>2) 患者の認識や持っている力を述べる 意識と認知機能・感情・学習と行動・知能・レジリエンス・ストレングス・リカバリー</p> <p>3) 患者の状態に合わせて、必要な日常生活援助を実践する</p> <p>(1) 日常生活における身体ケア (2) 睡眠の援助</p>
<p>3. 患者－看護師関係を理解し、治療効果を高めるための援助を実践する</p>	<p>1) 自己の認識と他者の認識の相違点を捉え、自己の傾向を認める 自らの偏見とおそれ・コミュニケーションの癖・認知のゆがみ</p> <p>2) 患者-看護師関係における感情体験を経験しながら、患者にとって効果的な関わりを看護師とともに考え実践する</p> <p>(1) 自己一致・応答性 (2) 主体性と自立性の尊重：患者のペースを守る・守秘義務・パーソナルスペース (3) 共感・そばにいたいこと・現実検討（ともに行動し確認する）・言語的・非言語的コミュニケーションの活用</p>
<p>4. 地域に暮らす精神障害者に必要なサポート体制について知る</p>	<p>1) 地域の環境整備（社会生活支援施設）の実際について述べる</p> <p>(1) 相談支援（一般・特定）・地域の相談窓口 (2) 医療にかかわるサービス：自立支援医療費・精神科訪問看護・精神科デイホスピタル・ACT（包括型地域生活支援プログラム） (3) 生活を支えるサービス：日中の活動の支援（自立訓練・就労移行支援・就労継続支援）・住まいの場</p> <p>2) 地域生活支援施設および病院での多職種連携における看護師の役割について述べる</p>
<p>5. 看護師として必要な態度を養うことができる（共通目標）</p>	<p>1) 相手(患者・家族・医師・看護師)を尊重し思いやる姿勢</p> <p>(1) その場の状況にふさわしい行動 (2) 身だしなみ (3) 誠実な態度 (4) 体調管理</p> <p>2) 学習に対しての主体的な取り組み</p> <p>(1) 事前学習 (2) 自己の課題への取り組み(看護技術の自己研鑽・文献検索) (3) 最善の看護の提供を追求 (4) カンファレンス・振り返り会等の積極的な意見(他者の意見を受け止め自己の考えを表現) (5) 期限の厳守(提出物・約束事)</p> <p>3) 報告・連絡・相談する</p> <p>(1) 自分の行動を言語化する (2) 要点を整理して伝える (3) 相手の状況や反応を確認しながら優先度を考えて伝える (4) 連絡することにより情報を共有する (5) 気がかりなことや確信がもてないことなどについて相談する</p>

実習目標	行動目標/学習内容
	<p>4) チームワークを考えた行動</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) チーム内の相互の役割調整(リーダーシップ・メンバーシップ) (2) アサーティブなコミュニケーションがとれる (3) 得た情報を交換し対応を考える <p>5) 安全管理への配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 感染対策の徹底 (2) 医療事故防止のための意見交換 (3) 医療事故防止のための共有化 (4) 日々の生活の中で事故防止のための行動(リスクを考えた行動) (5) 個人情報管理(記録物の管理を含む) <p>6) 自己の実習の振り返りと看護観の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 自己の傾向の振り返り(分析) (2) 自己の課題の明確化 (3) 大切にしていきたい看護について考え表現(自分の目指す看護像・自己と向き合い課題解決のための行動)ための行動)